

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年8月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田		
所在地 (電話番号)	静岡県下田市5丁目6-60		(電話) 0558-23-0218

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年5月18日		

【情報提供票より】(19年 4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤3人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	56,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(4月25日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79 歳	最低 64 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木クリニック	なかむら医院	共立湊病院	石原歯科医院
---------	---------	--------	-------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者も職員も一体となった家庭らしい雰囲気づくりが行われる中で、利用者は充実した生活を送っている。開設以降、地域住民等との関係も良く、開設3年を経過する中で、地域に根付いたホームとなってきている。管理者及び職員も問題・課題意識を強く持ち、更なる取り組みの必要性を感じている。利用者及び家族の信頼も深まりつつあり、今後のホームの取り組みにも期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価時から管理者も変わり、運営全般について職員とともに点検が行われてきた。問題や課題意識が高く、利用者本位のサービス提供に向けて常に次の取り組みを考えている。また、改善すべき点は計画的に改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者とユニット責任者3名で行ったが、全ての職員にも伝えられ、話し合いがもたれている。これらからも改善していく意欲が現れている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催される運営推進会議では、現在のサービス提供状況を報告したり、利用者のために何を行うべきか等、具体的な話し合いが行われ、それらの意見は職員間で共有され、それを活かした取り組みに繋げる努力をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問も多く、その際には相談や意見を伺うように留意している。また、それが運営やサービス提供に反映されるようにも意識している。しかし、意見や苦情についての外部への申出先を重要事項説明書等に明示して欲しい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当時から地域との関係は良好であり、日常生活を行う中でも交流を深めている。地域に根付くホームづくりを進める中で、地域との関係を大切に考えており、こうした関わりを今後も大切にしたい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	緑の多い自然環境の中で、利用者と職員が、共に明るく仲良く笑顔のある楽しいホームづくりを目指すための理念が明示されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、その実践に向けて取り組んでいる。理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時から地域住民との関係は良好で、日常的な交流もあり、収穫物の差し入れや地域行事への招待等が自然に行われている。また、ホーム行事にも気軽に参加が得られるような関係となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解し、全ての職員で取り組むとともに、話し合いのもとで具体的な改善にも取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人代表、管理者、市職員、地域住民、家族、利用者代表のメンバー構成で開かれ、活発な意見が交換されている。また、記録も適切に残され、その内容を全ての職員も確認するとともに、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には定期的に赴き、実情を伝えたり、様々な相談を行う関係づくりが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問が多く、その都度日常生活の様子を伝えている。毎月ホーム便りを作成するとともに、暮らしぶりや健康状況及び金銭管理、スナップ写真等も添えて伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問も多く気軽に意見や苦情を言えるような雰囲気づくりが行われている。しかし、その申出先となる連絡先の明記がない。	○	重要事項説明書上には、意見、苦情を申し出るホーム、市、国保連の最低三者の明記を行って欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職による利用者への影響については十分に理解している。以前は職員の移動等もあり、やや落ち着かない状況もあったとのことであるが、最近は落ち着いている。	○	十分に認識していると、その影響やダメージを考慮し、現状を維持していくように期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社3ヶ月間の研修期間を設けている。職員の質の向上に向け、日常業務の中で体得するようにしているが、併せて外部研修にも受講を促している。	○	職員の質の向上を図るため、具体的な研修受講(実施)計画等の策定についても検討して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域的に同業者が少なく、機会も少ないが、法人内での勉強会は行っている。また、他地域のホームと職員を受入れし合い、向上を図る目的で研修を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム生活に馴染むまでは、十分な配慮が行われるとともに、家族にも協力を得るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を大切に考え、日常生活をともに過ごす中で、学び支えあう関係づくりを行っている。利用者により寄り添うように接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握するように努めている。日常生活や活動の中から利用者の発言や行動からも嗜好や関心ごとを把握し、その共有に努めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関わる職員が全員で意見を出し合って計画策定するようにしている。家族に意見を伺うようにも努めているが、具体的な場面を設けていない。	○	計画策定(見直し)時には、意図的に家族も巻き込んで率直な話し合いを持つなどの検討も行って欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一度作成し、見直しは確実に行われている。また、見直し以前に変化が生じた場合など随時見直しも行われている。	○	状況の変化が無くとも、1か月程度ごとにその確認を行って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	ホームの特性を理解して、柔 軟なサービス提供を行うため に努力しているが、独自の自 主的なサービス提供とまでの 検討には至っていない。	○	開設3年を迎え、利用者及び 家族の意向を踏まえたサー ビス提供を行っているが、よ り求められる活動実施や生 活支援を今後も検討して実 施して欲しい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大 切にし、納得が得られたか かりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療 を受けられるように支援し ている	提携、協力医との連携を図 り、利用者の必要な受診 を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた 方針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	重度化や終末期の介護、い わゆるターミナルケアにつ いては、関心を持っている が、今のところ具体的な 検討にまでは至っていない。	○	利用者の状況や動向、家 族の意向を踏まえてター ミナルケアのあり方につ いて具体的に検討を重ね て欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹 底 一人ひとりの誇りやプライバ シーを損ねるような言葉 かけや対応、記録等の個人 情報の取り扱いをしていな い	利用者のプライバシー保護 について、ホームでも十分 に認識し、配慮した対応が なされている。個人情報保 護についても適切に取扱 っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮ら し 職員側の決まりや都合を優 先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそっ て支援している	入居者の様子等を観察し、 一人ひとりの意向や希望 に沿った生活支援が行われ ている。また、利用者の ペースを大切に考え、毎 日同じようにならないよ うな変化がある充実した 生活を送れるようにも配 慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けも職員と利用者が自然に一緒に行っている。食事時間を大切に考えて、ゆっくりと楽しくなるように配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。利用者の体調や希望により、その頻度は異なるが、ゆったり入浴できるように支援がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や過去の経験を把握した上で、充実した生活が継続できるように支援が行われている。ホーム内での役割や楽しみごと、気晴らしになるような場面を多く設定することで、利用者に張り合いや喜びのある日々が送れるように配慮がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により外出できるように支援しているが、ホーム自身でも課題としており、その十分な支援が行われていない。	○	できる限り外出する機会を設けているが、一人ひとりのその時々希望に併せて支援が行えるように期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は一切行わないこととしている。鍵をかけないで、職員が見守ることで利用者の行動を制限しないケアを基本にしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の立会いと地域住民の協力を得て防災訓練を行っている。	○	あらゆる事態を想定して地域住民の協力を得られるような関係づくりを進めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量の記録は行われている。また一人ひとりに必要な水分摂取量の把握や栄養のバランスにも留意している。	○	栄養士等の協力を得て、定期的に摂取量(栄養バランス)のアドバイスを受けられるようにしてみても良いのでは。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に家庭的な雰囲気であり、居間、食堂とも広くゆったりとしている。窓も大きく、一人ひとりがゆったりと過ごせるように配慮されている。トイレや浴室等の使い勝手も良く、季節の植物等も配架されるなど清潔感も感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は一人ひとり使い慣れた家具類を持ち込み、家族も宿泊できるように布団も用意する利用者もある等、一人ひとり個性のある居心地良い居室づくりがされている。		